

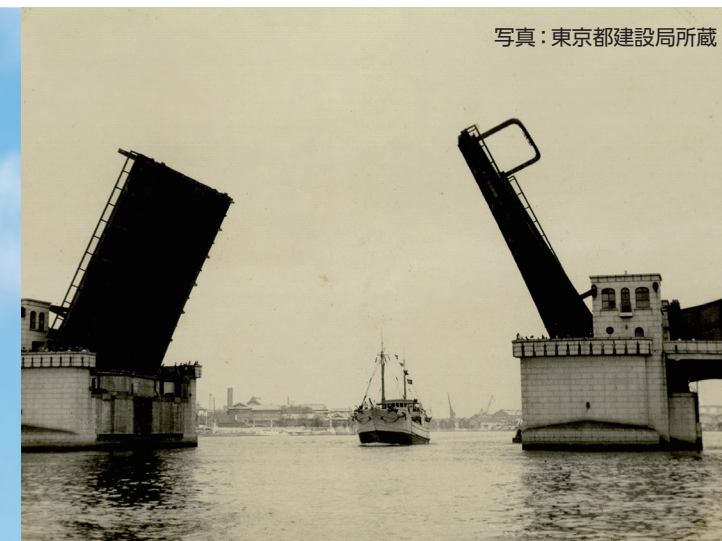


勝どき橋の開閉装置がご覧になれます

勝どき橋

橋脚内見学ツアーのご案内

現在、見学ツアーについては、
新型コロナウイルスの状況により見合わせています。
再開が可能となりましたら、ホームページ等で開催日時や
申込方法をお知らせいたします。



勝興橋は、昭和 15 年 (1940) に隅田川河口部に築造された、わが国で最大規模を誇る可動橋です。
橋の中央部を「八」の字型に開いて、1000 トン級の大型船舶を通すことができました。

橋脚内見学ツアーは、橋や機械・電気に関する高度な技術的工夫がこらされた開閉の仕組みを多くの方々に
知っていただくために開催します。

ツアーでは、東京都建設防災ボランティア協会が「かちどき 橋の資料館」で、勝興橋の構造や歴史、機械設備などを解説し、橋脚内のご案内します。

なお、一般の方を対象としたツアーのほかに、学生・技術者等の技術系団体向けのツアーも併せて開催します。

● ツアー問い合わせ先
(公財)東京都道路整備保全公社 公益事業課
☎03-5381-3380



ハーネスを装着し、高さ 3.5m の橋脚内の梯子を垂直に降ります。



橋脚内での見学の様子。広さはテニスコート約 1 面、高さ 9m という巨大な空間



勝興橋を動かしていた発電設備



かちどき 橋の資料館



開閉した当時の勝興橋を再現した模型

かちどき 橋の資料館 DATA

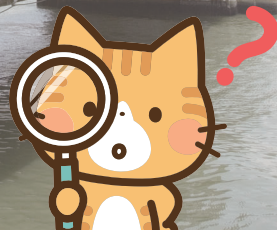
- 所在地 中央区築地6丁目20番11号 (勝興橋旧築地市場側橋詰)
- 開館日 火曜日・木曜日・金曜日・土曜日 9時30分～16時30分
(12/29～1/3を除く、12/1～2/28の期間は、9時～16時となります)
- 電話 03-3543-5672
- 入場料 無料
- アクセス 都営大江戸線:築地市場駅A1または勝どき駅A4出口から徒歩約8分
東京メトロ日比谷線:築地駅1出口から徒歩約8分
都営バス:築地6丁目バス停徒歩約3分(都03・04・05・業10系統)

かちどき 橋の資料館

「かちどき 橋の資料館」は、橋を開くために使用していた変電所を改修し、この勝興橋をはじめ隅田川の橋について、貴重な資料や関連情報等を展示・公開しています。



勝興橋をもっと知ろう!



Q. 勝興橋はどこに架かっているの?

隅田川の玄関口に架かる橋で、東京湾から隅田川に入った2番目にある橋。昭和 15 年 (1940) 開催を予定していた日本初の万国博覧会のメインゲートとして建造されましたが、残念ながら博覧会は第二次世界大戦のために昭和 13 年 (1938) に中止になりました。

Q. どうして勝興橋という名前にしたの?

明治 38 年 (1905) の日露戦争の勝利を記念して、築地と月島の間に新しく設けられた渡し場「勝ちどきの渡し」に由来しています。

Q. 何のために造ったの?

月島と築地の連絡は「佃の渡し」「月島の渡し」「勝ちどきの渡し」の3つの渡しに頼っていました。勝興橋は交通の不便を解消するとともに、当時埋め立てが進んでいた晴海や豊洲地区の開発支援のために建造されました。

Q. 可動式にしたのはなぜ?

隅田川は江戸時代から明治、大正、昭和の初頭頃まで河岸には倉庫や工場があり、マストなど背の高い貨物船も航行していました。また、造船所などもあり大型船も航行していました。このため、通常は人や車を渡し、開橋して大きな船を通すことのできる可動橋にしました。

Q. 開閉は1日に何回?

戦前は、1日 5 回開閉していました。戦後の昭和 22 年 (1947) からは1日3回、昭和 36 年 (1961) からは1日1回です。可動部は 70 度まで 70 秒で開きました。船が通る間、晴海通りは約 20 分間交通止めになりました。(※現在は開閉しません)

Q. なぜ開閉しなくなったの?

昭和 30 年代に入ると、生活物資などを運搬する交通手段は、船や鉄道から自動車に転換していきました。それにより、隅田川を航行する船は減少。また勝興橋を通る晴海通りの交通量が多くなり、昭和 45 年 (1970) 11 月 29 日を最後に開閉を中止しています。